

園務情報化に対する幼稚園教諭の意識と課題

～幼稚園教諭への研修および質問紙調査に対する回答の分析～

A Study on Kindergarten Teachers' Perceptions about Computerization of School Affairs.

森田 健宏

Takehiro MORITA

関西外国語大学短期大学部

Kansai Gaidai College

堀田 博史

Hiroshi HOTTA

園田学園女子大学

Sonoda Women's University

川瀬 基寛

Motohiro KAWASE

十文字学園女子大学

Jumonji University

上楯 英之

Hideyuki UESUGI

神戸学院大学

Kobegakuin University

〈あらまし〉「校務の情報化」が推進される中、幼稚園における「園務の情報化」も少しずつ取り組まれる様子が見られ、トータルパッケージ型の園務支援システムもいくつか市販されるようになった。しかしながら、小学校以降の校種と比較すると、実際に導入されている園は少なく、内容も限られていることが伺える。そこで本研究では、(1) 幼稚園教諭を対象とした園務情報化に関するアンケート調査のうち、自由記述欄への回答傾向の分析 (2) 幼稚園教諭対象の教員免許状更新講習「園務情報化の具体的実践」の受講者のうち、未導入園と既導入園（部分導入を含む）の問題意識の比較を行った。その結果、自由記述欄の回答者からは消極的な意見が多いものの解決的志向の言及も多く見られることや、未導入園と既導入園との問題意識について質的な違いが伺えたことなどが確認できた。

〈キーワード〉園務情報化、教師教育、幼稚園教育、幼小接続、学校経営の効率化

1. はじめに

学校へ本格的にコンピュータが導入され、ネットワーク利用が普及する中、「校務の情報化」が注目されている。この校務情報化について、堀田ほか（2011）は、小・中学校教員を対象に校務支援システムの機能の必要性に関する調査を詳細に行っており、利用経験者の方が未利用者よりも全体的に高く評価する傾向が認められること等が明らかにされている。

一方、幼稚園における「園務の情報化」については、小学校以降の校種とは異なる独特の事情があり、経理システムなど一部の用途を除き、あまり進んでいない。その理由については、これまでの先行研究（森田ほか 2012）で指摘されてきた通り、幼稚園の教員養成課程における情報教育の機会や現職研修、予算措置、インフラ整備の不十分さなどが指摘されている。そのため、幼稚園教員養成課程による積極的な情報教育の導入や現職教員を対象とした研修機会の充実が必要となる。一方、園務情報化の推進には、日頃の園務の現状からどのような内容に必要性を感じるかを正しく把握することも重要と思われる。

そこで本研究では、幼稚園の管理職を対象に、園務情報化に関するアンケート調査を実施し、そのうち、自由記述欄に記載された内容を分析し、特徴を明らかにした。また、園務情報化についての教員免許状更新講習を開催しており、受講者による討論の内容もあわせて検討した。

2. 方法

〈研究1〉幼稚園管理職へのアンケート調査

調査時期：平成23年12月1日～翌2月中旬

調査対象：全国の幼稚園のうち、無作為抽出により選ばれた500園を対象にアンケート用紙を送付し、園長（または主任等）に回答を求めた。その結果、264件（回収率52.8%）返送があった。なお、自由記述欄への回答は65件であった。

調査内容：堀田ほか（2011）の質問項目を参考に、以下の5カテゴリーで質問を構成している。

- A. 在籍園児管理・保安
- B. 保育活動に関する管理・記録
- C. 健康・生活・発達の記録と管理
- D. 保護者支援・交流
- E. 幼稚園事務一般

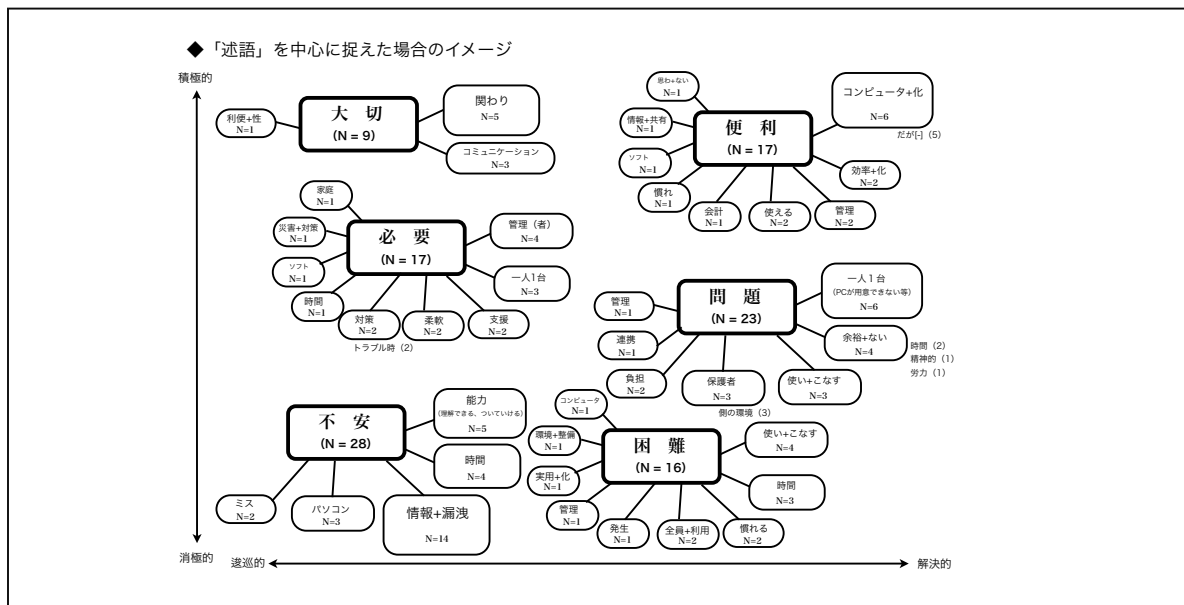


図1 自由記述欄への回答から高頻度で抽出された「述語」に関する分析

<結果と考察>

分析にあたっては、テキストマイニングソフト (IBM 社 SPSS Text Analytics for Surveys) により形態素解析を行い、キーワードの頻度データを抽出した。その後、「述語」に該当する6語を対象として、さらに同一文中で係り受けとなる語句を目視と共に抽出した結果が図1である。なお、述語の布置は、縦軸を積極的・消極的、横軸を遠巡的・解決的としてイメージ分類している。

その結果、抽出された述語は、全体的にやや消極的に偏りがちではあるが、解決的な方向にも多くの記述が見られることから、幼稚園では園務の情報化を拒絶する訳でなく、具体的な解決方法を提示することにより、理解が得られる可能性があると考えられることができる。例えば、「問題」に対し、「(教職員)一人1台(にパソコンが用意できない)」や「使いこなす」という係り受け語句などは、実際の利用を前提にしていると考えられることもできる。ただし、「大切」に対する係り受け語句は全て園務の情報化に否定的な記述であり、積極的な理解には未だ課題があるものと思われる。

<研究2> 教員免許状更新講習における園務情報化への意識と課題

調査時期：平成22年8月9日(1日間)
 調査対象：教員免許状更新講習「園務情報化の具体的な実践」に参加した幼稚園教諭20名
 調査内容：講習課題「園務をコンピュータで行う場合の問題点」を既導入園(上級・中級グループ)

と未導入園(初級グループ)に分かれ、KJ法の手法を利用して意見の集約、分類を試みている。
 <結果と考察>

上記の結果、未導入園ではコンピュータ利用への不安など、個人の能力に帰属する内容が比較的多いのにに対し、中級グループでは、個人情報の扱いへの不安や保護者とのコミュニケーションの方法など、個別、具体的な課題が示されていた。さらに上級グループになると、園で中心的に利用しているためか、管理の問題が中心に議論された他、職員間の業務負担差の問題も指摘されていた。

3. 本研究のまとめ

以上の研究結果より、園務情報化への幼稚園教諭の意識については、多様なレベルでの不安や問題意識が存在していることが明らかになった。今後の課題として、幼稚園教諭のコンピュータ活用レベルに応じた情報提供や支援方法を具体的に検討する必要があると考えられた。

<引用文献>

堀田龍也、山本朋弘、宮田明子、鈴木広則(2011) 校務支援システムの機能の必要性に関する調査結果、日本教育工学会第27回全国大会講演論文集、517-518
 森田健宏、堀田博史、松河秀哉、松山由美子、村上涼、吉崎弘一(2012) 幼稚園webサイトの運用状況とコンテンツ分析および今後の活用可能性について、日本教育工学会論文誌、35(4):423-431